絵本を用いた幼児教育に対する大学生の認知

淡野将太

(島根大学教育学部)

キーワード：絵本，幼児教育

Cognition for Childhood Education with Picture Books: University Student Sample

Syota TANNO

(Shimane University)

Key Words: picture books, childhood education

本研究は、絵本を用いた幼児教育に対する大学生の認知を検討する。絵本を用いた幼児教育の内容に関する研究は数多く提出されているが、絵本を用いた幼児教育を構成する者の認知に関する研究は提出されていない。本研究は、教職志望の大学生をサンプルとした調査を行い、絵本を用いた幼児教育に対する認知を検討する示唆を得ることを目的とする。

研究 1

目的

大学生を対象とした調査を行い、幼児教育において絵本を幼児に読ませたり読み聞かせたりする際、同じテーマを扱っている場合には現実世界を舞台にした絵本と空想世界を舞台にした絵本のどちらを選択するかを理由とともに検討する。

方法

対象者 対象者は、大学生 23 人（ジェンダー：女性 18 人，男性 5 人，平均年齢：20.22 歳， $SD = 0.42$ ）だった。

質問紙 質問は、「幼児教育において絵本を幼児に読ませたり読み聞かせたりする際、同じテーマを扱っている場合には現実世界を舞台にした絵本と空想世界を舞台にした絵本のどちらを選択しますか？理由とともに記述してください。」とした。理由に関する記述は、数に制限のない自由記述とした。

結果

現実世界を舞台にした絵本と空想世界を舞台にした絵本のどちらを選択するかに関する回答について二項検定を行った結果、空想世界に関する絵本と回答した者が現実世界に関する絵本と回答した者より有意に多かった（空想世界 = 19，現実世界 = 4， $p = .0026$ ，two-tailed）。

現実世界を舞台にした絵本もしくは空想世界を舞台にした絵本を選択する理由として、以下の記述が得られた（同様の回答があったものは括弧内に総数を記載した）。すなわち、空想世界と回答した者は、「想像力を養う、もしくは、高めることができる。」(6)、「幼児が絵本の世界に入り込んでくれそう、もしくは、楽しんでもくれそう。」(4)、「子どもが絵本の内容に興味を抱きやすいと考えられる。」(2)、「実際には経験することができないことを伝えることができる。」(2)、「夢を与えたい。」(2)、「親の言うことは聞かないがキャラクタの言うことは聞くことがあるため、空想世界の絵本で教示的メッセージを伝えたい。」(2)、「空想世界を取り上げた絵本しかできない描写によって幼児を楽しませたり夢を提供したりしたい。」、「動物を主人公とした絵本は、登場人物の差異性が分かりやすい。」、「現実世界の経験が少なく、空想の方がイメージを掴み易そう。」、「現実を伝えたい。」、「空想世界は表現に自由度が高い。」、「イメージしやすい。」、「空想世界を提示することで現実世界との差異性を教示できる。」と回答した。一方、現実世界と回答した者は、「イメージしやすい。」(2)、「メッセージを伝え易い。」、「子どもの遊びに繋がりがやすい。」、「小学校教育を鑑みて現実世界を絵本で学んで欲しい。」、「現実世界の知識を教示したい。」と回答した。

考察

二者択一では、空想世界を舞台にした絵本を選択した者が多かった。理由に関する記述を参照すると、大学生は空想世界を舞台とした絵本の方が表現の自由度が高いと考えていることが要因していると考えられる。また、同様の理由から異なる絵本を選択するケースも確認された。

研究 2

目的

大学生を対象に研究 1 の質問をより抽象的にした調査を行い、幼児教育において幼児に読ませたり読み聞かせたりしたい絵本がどのようなものかを理由とともに検討する。

方法

対象者 対象者は、大学生 22 人（ジェンダー：女性 17 人，男性 5 人，平均年齢：20.32 歳， $SD = 0.48$ ）だった。

質問紙 質問は、「幼児教育において幼児に読ませたり読み聞かせたりしたい絵本がどのようなものか、理由とともに記述してください。」とした。絵本の種類には数に制限を設けず、また、理由に関する記述は、数に制限のない自由記述とした。

結果

幼児教育において幼児に読ませたり読み聞かせたりしたい絵本とその理由として、以下の記述が得られた（同様の回答があったものは括弧内に総数を記載した）。すなわち、片付けや挨拶など生活の教則を掲載した絵本（生活を教示できる。）(6)，対人関係の教則を掲載した絵本（対人関係を教示できる。）(3)，食物、植物、動物が登場する絵本（食物、植物、動物への慈悲を学んで欲しい。）(3)，豊富な色使いの絵本（色彩感覚を涵養して欲しい。）(2)，喜怒哀楽を描写した絵本（感情を養いたい。）(2)，ポジティブな絵本（明るい気持ちにさせたい。）(2)，文字が少ない絵本（ストーリーが幼児に分かりやすい。）(2)，絵がポップな絵本（自分は目が怖かった。）(2)，幼児が楽しめる絵本（絵本を楽しんで欲しい。）(2)，モノトーンの絵本（色彩感覚を涵養して欲しい。）(2)，しかけ絵本（子どもの興味関心をひく。）(2)，アンパンマン（アンパンマンから社会的スキルを学んで欲しい。）(2)，ぐりとぐら（想像力を高めると思う。）(2)，保育に適合する絵本（保育教材として利用したい。）(2)，歌が組み込まれた絵本（歌を歌って欲しい、もしくは、歌って聞かせたい。）(2)，流行している絵本（他の子どもと流行を共有できるようにしたい。）(2)，という回答が得られた。

考察 サンプル数は限定的であり、心理統計を用いた分析は行っていないが、幼児教育において幼児に読ませたり読み聞かせたりしたい絵本およびその理由の様相が明らかになった。

今後の課題

本研究の知見を基に、より詳細なデータ収集および分析を行うとともに、対象者を幼児教育に携わる保育者や幼稚園教諭にし、絵本を用いた幼児教育に対する認知を探究することが今後の課題である。